

【「シャーペンはどうしていけないの？」と聞く子】

書写（硬筆）の授業をしていて、何人かの鉛筆の持ち方が気になります。この持ち方だと力を入れて字を書いたら鉛筆が指の間で回転してしまうのではないかと思うようなこともあります。中には、力を入れて書くことができないためでしょうか、薄く、そして震えているような字になってしまう子がいます。小学生のうちに、正しい字、ある程度しっかりした字が書けるようにしておかないと、それまでに身についた字のくせはなかなか直りません。シャーペンはそういう意味において、しっかりと字を書くことを大切にしたい小学生のうちはできるだけ使用しない方がよいと考えています。シャーペンを持てば、鉛筆がいなくなる、毎日削る手間が省けるというように考えることも理解できます。しかし、学校の準備、学習の準備として、筆記用具やその他のものをしっかりと用意することはとても大切なことです。シャーペン、ボールペン、サインペンなどしか入っていない筆箱はいかがなものでしょうか。今だからできる子どもと一緒に日々の支度、今だから身につくこと、また今だから身につけなければならないことがたくさんあります。鉛筆数本をちゃんと削って筆箱に入れることは、学習に向かう心の準備にもつながります。「どうしていけないの？」と聞く子にこう答えると誰もが理解してくれます。でも、一度筆箱に入れたシャーペンの魅力は捨てがたいようです。

【子ども同士の学び】

子どもが学校で、しっかりと学び、遊び、運動をし、多くの仲間と一緒に楽しみながら日々の生活を送る。それが当たり前のように行われることを誰もが願っていますし、そういう学校でなければならないと思います。でも、なかなかその願い通りにならないことが私たちを悩ませ、保護者の皆さんにご心配をかけ、そして何より子どもたちの意欲を低下させてしまいます。授業に集中できずに他の子の迷惑になってしまう子、ルールを守ろうとする意識が不十分な子、気持ちの表現がうまくできず間違った方法でコミュニケーションをとってしまう子などがいることも確かです。そういう子どもたちの存在を受け入れながら少しずつでも改善できるようにしていくことも私たちに求められています。そしてその過程には、子ども一人で変わっていくことができることばかりでなく、友だちとの関わり合いの中でしか気づくことができないこともたくさんあります。

子どもの学びの場は教室だけではなくありません。休み時間の校庭などでの遊びや、係や委員会の活動などを通してのたくさんの学びがあります。

日々の生活のあらゆる場面にある学びを大切にして、大人からの指示や注意がないところでも、自分たちで考え、判断し、そして行動できるような子どもたちに成長してもらいたいという思いを強く持ちます。

【書写の時間に】

「先生、ひらがなの“ゆ”がなかなかうまく書けません」「“愛”という字はバランスよく書くのが難しいです」・・・さて何年生の発言だと思いますか。

私は、いかにも6年生らしい発言だと思います。これまで“ゆ”も“愛”も普通に書いていたのです。でも、改めて自分が書いた字を見て、「もっと上手に書きたい、書けるようになりたい」と思う気持ちとその発言につながっていると思います。短い時間でしたが、この2人の子どもはそれぞれが“ゆ”と“愛”に向き合いました。

自分の書く字、自分の学習の結果を見て、「もう少し・・・したい」と思うことが小さな成長の原点になるのではないのでしょうか。「どうかしたい」と思えば、次に「どうしたらよいか」を考えるようになるのは当然のことでしょう。それが書写に限らず勉強ではとても大切なことです。

課題を与えてそれをやらせるだけなら誰でもできます。私たちはそこで子どもが感じ、思うことにふれることで成長を応援できるのだらうと改めて考えさせられました。

【「なんでですか？」】

近頃、子どもたちから聞こえてくる言葉に「なんでですか？」があります。これは正しい言葉でしょうか。

ごく近い関係において「なぜ？」を「なんで？」ということがあります。本来は「なぜ？」「どうして？」であるべきだと思うのですが、人に対して使うときに、「なんで」に「ですか」をつけていかにも丁寧語にでも変化させたような気持ちになっているのかもしれませんがそれは心の中のつぶやきなのかもしれませんがそれが一旦口から出せばもう心の中のつぶやきではなくなります。その段階で、適切な言葉に置き換えることができないといけません。もう一つ加えれば「なんでですか？」にはややふてくされたような気持ちもこめられて使われるように感じます。心地よくない言葉の一つです。

*****講演会について*****

昨日、3月7日に実施予定の保護者向けの講演会のお知らせを配付いたしました。できるだけ多くの方にご参加いただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。